

大垣市 農業委員会だより

第24号

令和6年1月1日発行
編集/発行 大垣市農業委員会
(大垣市丸の内2丁目29番地)
☎ 0584-81-4111(内線2532)
☎ 0584-47-8614(直通)
Fax 0584-81-4899

新年のこぼれ挨拶

大垣市農業委員会

会長 岩井 豊太郎



新年あけましておめでとうございます。
令和六年の新春を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

四年前から新型コロナウイルス感染症流行により、社会経済をはじめ生活のあらゆる面で活動が制限される状態でしたが、幸い昨年五月八日から新型コロナウイルス感染症は季節性インフルエンザと同じ五類に移行されました。コロナ前と同様の活動ができるようになりました。

昨年七月、本市の農業委員会が、新体制移行後三回目の改選が行われ、農業委員十九名、農地利用最適化推進委員二十名が選出され、新体制でスタートしました。
平成二十八年四月の改正農業委

員会法の施行により、農業委員会は、担い手への農地の集積・集約化をはじめとする「農地利用の最適化」に重点を置いた活動を展開することになりました。

そこで、本県は、独自の取り組みとして、平成二十九年度から「ぎふ農業委員会活性化大作戦」と定め、三十年代からは目標達成に向け、農業委員会ごとに工夫を凝らした「一農業委員会一事例づくり」を進めてきました。本市の農業委員会は、皆様方のご努力により、令和元年度「農業振興部門」、二年度には、「遊休農地の解消部門」で農業委員会活動優良表彰を受賞しました。本年も「第三次活性化大作戦」の取り組みに向け、農業委員、推進委員全員でワ

う。

更に、昨年四月には、これまで取り組んできた「農地利用の最適化」をより加速化するため「人・農地プラン」を法定化し、目標地図を盛り込んだ「地域計画」の作成等を柱とする改正農業経営基盤強化法が施行され、農業委員会は農地の出し手・受け手の意向調査、目標地図の素案作成を担うことになり、従来以上に大きな役割が期待されています。

本県は、効果的な農業委員会活動に取り組むため、全国で唯一、農業委員、推進委員全員にタブレットを一人一台配布されました。タブレット端末を活用しながら、これまで以上に現場に入り、地域の皆さんの意向や思いを丁寧に拾いあげ、話し合いに参加し、本市の農業委員会の存在意義を高め、農業・農村の発展に繋がることを期待します。

本年もみなさまのご協力をお願いし、新年のご挨拶とします。

農地パトロール



農業委員

中津 正三

農業委員の取り組みは、農地利用状況の調査や遊休農地の調査等、農地所有者の意向把握し、問題意識に取り組みながら農地の有効利用につなげて行く事だと思っています。

私の地域の農地は、担い手農家さんに集積が進んだことで、遊休農地、耕作放棄地の解消に効果が上がっていると思います。

市街化区域内での小規模農地もきれいに耕作されていますが、現状高齢の農家さんで維持されている事が多く、このまま高齢化が進むにつれ、後継者についての問題や、農地の耕作放棄、遊休農地化、また用排水施設、農道等の生産基盤の維持も心配になっています。

営農が持続的に出来る様に今すぐ取り組む課題は、色々あると思います。行政やJAと緊密に連絡を取りながら維持に頑張りたいと思います。

昨今は世界の人口増加や地球の温暖化、ウクライナ侵攻等で食糧確保が困難となり、食料自給率向上が大きな課題にもなっています。

これからも皆様のご理解、ご支援よろしくお願ひします。

農地保全



農業委員

春日井 忠

現在、農業委員として、さらに地域の担い手として、耕作地が適切に管理されているか農地パトロールを実施しています。

今後、農業委員の役割として、高齢のため離農を予定している地権者から、これまでも農地の貸借などの相談をうけることが多いのですが、農地中間管理機構を利用した農地の集約化を進めていきたいと考えております。

地域計画を策定する中で、担い手を中心とする受け手による話し合いの場を設け、受け手の経営条件を勘案しながら、五年、十年先も持続可能な農業が出来るように地域割をして農業経営が安定するように努めていきたいと考えております。

また、高齢化による担い手が減少するなかで、地域の若者や、女性の担い手を育成し、農地の受け皿の確保ができるように努めていきたいと考えております。



農地利用最適化推進委員になって



農地利用最適化推進委員

五島 貞次

本年度から中部地区農事改良組合長会の会長を務めることになり、同時に推進委員も指名され、任に就くことになりました。

私は長年自動車関係の製造に携わってきた、定年後、親の後を継いで狭いながら稲づくりを始めただけの経験しかありませんが、逆にその新しい目線で農業を見て意見を述べさせていただきたいと考えております。

中部地区は市街化区域が多く、農地も小規模で、又農業従事者についても高齢化が進み、農地を手放す方も増えてきていますと聞きます。

しかし、「田植え前の水を張って光がキラキラする田」、「すくすく伸びた稲が風に大きく揺れる稲の波」、「一斉に出穂した時の感動」、「黄金色に実った稲穂が垂れる様子」、そして収穫。こんな日本の原風景とも言える喜びを絶やさない為には、計画・調査・行動等を積み重ね経済的にも向上する事が重要だと思えます。

少しでもお役に立てる様、アドバイスを受けながら活動していきたいと思えます。

大垣市地域計画策定キックオフ会議開催

令和5年4月1日に改正農業経営基盤強化促進法が施行され、市町村は令和7年3月末までに、目標地図を盛り込んだ地域計画を策定することとなりました。地域計画は、区域における農業の将来の在り方や農用地の具体的な利用の姿を示すものです。

策定に向けては地域の農業者、農業委員会、JA、市役所等関係機関との密接な連携が必要となります。

そこで、令和5年11月27日に、西部研修センターに関係者約100名が集まり、地域計画の策定に向けての話し合いが行われました。

今後は、以前の人・農地プラン同様、市内20地区のエリア単位で、関係者等に集まって頂き将来、効率的に農作業が行われるよう担い手ごとに農地をまとまりのある状態（集約化）にすることを目指します。

具体的な日程等の詳細が決まり次第、市HPで周知させていただきます。

後継者不足、遊休農地の増加など、様々な課題がございますが、皆様の協力の下、将来の地域の農業の在り方について話し合いを進めていきましょう。



大垣市農地賃借料情報

令和5年1月から12月までに、農業経営基盤強化促進法に基づき利用権設定された賃借料及び農地法第3条許可により設定された賃借料における賃借料水準は、次のとおりです。

〈水田の部/10a当たり〉

締結（公告）された地域名	平均額（円）	最高額（円）	最低額（円）	データ数
大垣地域	—	—	—	—
上石津地域	—	—	—	—
墨俣地域	4,230	5,000	4,000	13

農業者年金に加入しましょう

農業者年金には **メリット** がいっぱい！

- ・農業者なら誰でも入れる「終身年金」※
- ・一定の要件を満たす方には、保険料の国庫補助
- ・税制面で大きな優遇処置

※加入資格

- ①年間60日以上農業に従事
- ②65歳未満
- ③国民年金第1号被保険者



詳しくは

農業者年金基金

検索

<https://www.nounen.go.jp>

Part 3 **かがやく☆人・農地訪問☆**

みんな笑顔！「親子農業体験」親子 秋の収穫祭 ～上石津地区～

団体プロフィール

名称：牧田まちづくりよいところ部 (キララマッキー)
 キラッと光り楽しく牧田地区の農業を伝えたい
 代表：桐山 文子 (地区農業委員)
 会場：上石津町牧田平井地区
 会員数：7名
 活動内容：里芋、さつまいも、落花生、カモミール
 冬野菜の栽培と出荷及び収穫祭の企画



令和5年11月、上石津町牧田地区で、キララマッキー主催の「親子・秋の収穫祭」におじゃましました。参加者：上石津町内外 43家族 128名

Q 収穫祭を行おうとしたきっかけは？参加者の反応は？

A 今年で5回目となります。当初は、里芋が豊作で、地元の方への収穫依頼がきっかけです。

予想以上の好評価で、収穫した里芋を手にとった地元の方の笑顔を見て、もっと広くこうした体験をして頂きたいと、親子を中心とした収穫祭を開催しました。

今では、地元以外の多くの人々に体験して頂き、参加者からは、「色んな野菜があり、畑のスーパーみたい。」「野菜の実り方が勉強になった。」など、喜びの声を聴き励まされています。



野菜を大量に収穫した様子

重そうな落花生。



Q 「牧田まちづくりよいところ部」今後の活動について

A 補助金を活用して運営しておりますが、「今後も継続的に補助金が確保できるか！」等、資金面での不安や、自身の体力の衰えも感じる昨今、今後、部を存続できるか分からない状態です。

Q 中山間地域の農業の現状と課題について？

A 耕作者の高齢化、後継者不足による持続可能な農業が困難な中で、既に農地として再生困難なものについては非農地判断を進めることが、中山間地域における限られた農地を守ることに繋がると考えております。



桐山さんとスタッフ

★取材を終えて

「里芋の子いっぱい！」「落花生って土の中??」「自分で掘れた！」のどかな里山にこだまする親子の歓声と参加者・スタッフのほのぼのの交流。今や超便利社会の中にも、子どもたちが自ら自家製野菜に触れる体験交流の場を開放される牧田の『おもてなし農地活用』に感動しました。



さつまいも収穫